

H-1 頸椎症性神経根障害に対する 高気圧酸素療法 (HBO) の有効性

井上 治¹⁾ 野原 敦¹⁾ 砂川昌秀¹⁾
宮城正一²⁾

〔¹⁾ 琉球大学医学部附属病院高気圧治療部〕
〔²⁾ 諸見整形外科医院〕

【目的】頸椎椎間板ヘルニアや変形性頸椎症に起因する神経根症状(頸髄根症)は、手や腕のしびれ、頸肩腕痛に加えて頭痛や不眠、ノイローゼなど生活上の支障を来し、薬物や頸椎牽引、神経ブロックなども効果が少ないことも多い。また頸椎の手術は脊髄麻痺などの合併症も無視できず、患者のみならず専門医も躊躇することもある。高気圧酸素療法(HBO)は急性脊髄損傷に対する救急適応として行われているが、われわれは頸髄根症にも適応を拡大し、保存療法が無効な症例にHBOを行った。

【症例および方法】難治性の頸髄根症8例(31~78歳,男3人,女5人)で、罹患椎間はC2-3(1例),C3-4(3例),C4-5(6例),1例は後方よりの圧迫(C4-7)も見られ、神経根症状は右2例,左5例,両側1例であった。日整会の頸椎症治療判定基準が汎用されているが、自覚症状の細やかな判定は困難である。われわれは自覚症状7項目を設け、0(正常)~3(最も強い症状)の4段階に分け、個々の症例で評価可能な項目を採点し、その平均値で自覚症状の改善度を総合評価した。

【結果】HBOは、2.8 ATA 90分/日、7~30回(平均16.6回)、17~32日間(平均26日間)行った。

1. 自覚症状による評価:各症例ではそれぞれ2~6項目(平均4.1項目)がHBO前後において評価が可能で、「しびれ」6例、「疼痛」6例、「筋力低下」2例、「頸部硬性」7例、「頭痛・不眠」4例、「手巧緻性」6例、「歩行障害」1例で評価した。各項目の総合点を項目数で割った点数は、HBO施行前1.0~3.0(平均2.0)であったが、HBO施行後0~1.0(平均0.5)に著減し、自覚症状が著しく改善された。

2. 日整会治療判定基準による評価:HBO施行前8~14(平均11.5)で、HBO施行後8~14(平均12.5)のわずかな増加にとどまった。

【結論】手や上肢帯の「しびれ」「疼痛」が早期より改善し、「頸部硬性」「頭痛、不眠」など生活上支障の大きい症状にも有効であった。

H-2 腰椎症に対する高気圧酸素療法 (HBO) の有効性

井上 治¹⁾ 野原 敦¹⁾ 砂川昌秀¹⁾
宮城正一²⁾

〔¹⁾ 琉球大学医学部附属病院高気圧治療部〕
〔²⁾ 諸見整形外科医院〕

【目的】腰椎椎間板ヘルニアや変形性腰椎症、腰部脊椎管狭窄症(腰椎症と略)などに起因する腰痛やしびれ、歩行障害などは日常生活に支障を来し、反復手術例では難治性である。高気圧酸素療法(HBO)は急性脊髄損傷に対する救急適応として行われているが、われわれは腰椎症にも適応を拡大し、保存療法が無効な症例にHBOを行った。

【症例および方法】39~75歳(平均61歳)の10例(男8例,女2例)で、主病変は椎間板ヘルニア5例、腰部脊椎管狭窄症3例、腰部脊椎外傷2例で、7例に手術歴があり、内2例は多数回手術であった。罹患椎間はL2-3(2例),L3-4(3例),L4-5(8例),L5-S1(3例)、脊柱管狭窄(4例)などであった。足~下肢痛/しびれ9例(両側5例)、腰痛8例、歩行障害8例などを訴え、日整会の腰痛疾患治療成績判定基準で評価したが、膀胱機能は除外した。HBOは、2.8 ATA 90分/日、7~28回(平均13.5回)、11~58日間(平均21日間)行った。

【結果】常に腰痛(1点)3例、軽い腰痛(2点)6例、腰痛なし(3点)1例が、1点3例、2点3例、3点4例となり、平均1.8→2.1点に改善。常に下肢痛・しびれ(1点)8例、軽度(2点)1例、症状なし(3点)1例が、1点6例、2点2例、3点2例となり、平均1.3→1.6点に改善。歩行100m以下(0点)5例、500m以下(1点)3例、500m以上(2点)1例、正常(3点)2例が、0点1例、1点5例、2点1例、3点3例となり、平均1.1→1.6点に改善。SRL30~70度(1点)3例、正常(2点)7例は変化なし。明らかな知覚障害(0点)2例、軽度(1点)3例、正常(2点)5例が、平均1.3→1.5点に改善。明らかな筋力低下(0点)2例、軽度(1点)1例、正常(2点)7例は変化なし。日常生活動作7項目14点満点は平均9.4→10.1点に改善。よって総合点数(29点満点)では5~26点(平均17.5点)5~29点(平均19.5点)に改善した。

【結論】腰椎症では腰痛、下肢疼痛/しびれが歩行能力や日常生活動作を低下させ、HBOはこれらの症状を改善したが、多数回手術例では効果は少なかった。